

日本医科大学東洋医学科活動報告

部長・教授	高橋	秀実
非常勤講師	三浦	於菟
非常勤講師	平馬	直樹
医局長・医員	高久	千鶴乃
医員	廣田	薫
医員	高久	俊
医員	吉永	恵実
医員	近江	恭子
医員	小野	顕人
医員	福山	耕治
非常勤鍼灸師	國嶋	徹
非常勤鍼灸師	藤田	勇
非常勤鍼灸師	菊地	順彦
非常勤鍼灸師	二階堂	成己
非常勤鍼灸師	福岡	豊永
非常勤鍼灸師	岩崎	由美(H22.3から)
看護師	佐藤	佳代(H22.8から)
看護師	稲垣	桂子
看護師	石塚	純子
看護師	根岸	江梨子
秘書(鍼灸師)	金井	珠保
顧問	胡(菅沼)	栄
研修生	斉藤	均(都立広尾病院)

◇沿革

本科は、平成2年7月、東京都千代田区飯田橋にあった日本医科大学附属第一病院の東洋医学外来として発足した。平成4年6月、日本医科大学附属第一病院東洋医学センターと改名し、病院長直轄の診療研究教育組織となった(当時のセンター長は藤木健一)。平成9年7月、附属第一病院の閉院に伴い、文京区千駄木にある日本医科大学附属病院の東洋医学科として移転、東洋医学科発足当初から本科の維持・発展に尽くされた三浦於菟先生が部長となり、日本医科大学における東洋医学科が確立された。平成15年4月には日本東洋医学会の研修指定施設(指導医:三浦於菟、春木英一)として認定された。平成17年2月、部長の三浦於菟先生の東邦大学医学部東洋医学科教授への転出に伴い、日本医科大学微生物学免疫学教室教授で日本東洋医学会指導医の資格を有する高橋が東洋医学科部長を兼務することとなった。さらに平成19年からは日本アレルギー学会の研修指定施設(指導医:高橋秀実、新谷英滋)としても認定された。

◇診療活動

平成17年2月より大学側の意向により免疫療法実施施設として現在の丸山ワクチン研究施設内に移転し診療活動を開始したが、平成22年1月からは付属病院1階に新たに設置された外来診療室に移り現在に至っている。平成17年4月からは平馬直樹先生を非常勤講師として、また中医師として活躍中の胡栄先生を顧問として迎え新たな体制で診療を継続してきたが、現在では、日替わりで診療担当医師、看護師及び鍼灸師を置き土曜日を含め毎日東洋医学の診療を行う状況となっている。その結果、日本医科大学付属病院の他科や近隣病院からの紹介、さらにはインターネットをみて来院される患者も順調に増え、現在の1外来体制では患者をさばききれない状況となってきた。全て予約制をとっているが、この1年間の総外来患者数はさらに増加傾向を示し延べおよそ7800人となっている。この数が現在診療可能の限界数であるため、今後のことを考え平成22年1月の移転に伴い電子カルテ用端末を設置した診療可能な部屋を1部屋増設した。

当科では、本学付属病院を始め、近隣病院の各種診療科からの紹介患者を受け入れているため、疾患の種類はあらゆる分野に亘ると同時に、様々な科との併診となって治療が進められる場合が多い。その中でも、西洋医学では根治しにくい難病である、再発性あるいは転移した悪性腫瘍(癌)、パーキンソン病、リウマチや膠原病などの難治性進行性疾患、慢性腎炎や慢性肝炎、アトピー性皮膚炎を含むアレルギー性疾患、不妊症や生理不順を含む婦人科疾患、うつ病を主体とする精神神経疾患など多彩な疾患患者が老若男女を問わず来院する。もちろん、こうした患者群が感冒や胃腸炎・膀胱炎などの急性疾患を起こした場合には、抗ウイルス剤、抗菌剤などの西洋医学の薬剤の併用を含め適宜対処するとともに、必要に応じて血液・尿・心電図・胸部X線検査等の一般検査のみならず、CTスキャン、MRI検査、超音波検査などの様々な特殊検査を診察時のコンピュータ画面上でオーダーできる大学付属病院ならではの特徴を有している。

また、後述するように、本東洋医学科では、BSL学生や前期研修2年目の研修医を受け入れているため、これら医学生や研修医の教育を含め、西洋医学の検査あるいは治療の併用を積極的に取り入れ、東洋医学と西洋医学を合体させた独自の

医療の展開をめざしている。また、バックに大学の付属病院が控えているため、様々な疾患を抱えた入院患者さんも本科の治療の対象となることがあり、西洋医学的な治療に生薬あるいは鍼灸治療の併用を実施するとともに、それらの結果を定期的に行う研修医や医学生を交えたカンファレンスで検討している。

◇教育啓蒙普及活動

1) 卒前教育（医学部学生に対し）

3年生に対する基礎配属：日本医科大学では、報告者高橋が医学部3年生を対象とし「東洋医学的視点も含めた生体に内在する免疫応答力への理解」というタイトルのもと、およそ20年前から選択学生に対し中医学の講義を主体とした陰陽五行説を含めた東洋医学の具体的な内容や基礎的な鍼灸理論、また高橋が関与する各種診療所や病院での鍼灸治療や湯液治療の実践見学、免疫学を背景とした科学的な薬理作用の概説、そしてツムラの茨城工場でのエキス剤製造過程、薬理研究所および薬草園の見学を実施してきた。因みに平成22年度は選択者18名に対し1回1時間30分から2時間、総計20回の講義を実施した。例年このコースの選択者は非常に多く、全学生が100名足らず、コースが80コース程度あるにもかかわらず15～25名がこの東洋医学コースを選択している現状は、医学部学生が潜在的に東洋医学への興味を抱いていることを示唆している。

4年生に対する東洋医学の教育：日本医科大学では、前任者の三浦於菟先生の時代から、医学部4年生を対象とし精神医学コースの中で東洋医学の講義を実施しており、平成22年度も昨年に引き続き高橋が独自に作成したテキストをもとに講義を担当した。また、平成21年度より基礎医学を修了した医学部3年生に対して行われる「臨床医学総論」コースにおいて従来の倍の時間数を講義することになり、いよいよ医師としての素養の一つとしての学問体系として東洋医学が認められつつある状況になってきたと感ずる。しかしながら、まだ大学全体としては講義時間が足りないと考えられるため、今後は少しずつ講義時間を増やしていく予定である。

2) 卒後教育（研修医や大学院博士課程の学生に対し）

新臨床研修制度による研修：東洋医学科での臨床研修も軌道に乗ってきたようで、平成22年度は日本医科大学付属病院での医師国家試験取得後内科・外科などの臨床研修を終えた2年目に当たる総計40名の研修医のうち、9名が総計13ヶ月間、本東洋医学科で研修を積んだ。現在の状況で

は、一度に2-3名の研修医を教えるのが限度であり、大変もったいないことではあるが教育スペース面も含め、実際には当科での研修を選択する希望者を断わらざるを得ないのが現状である。これらの研修医は配属された期間は全て東洋医学を学んでおり、将来東洋医学を自分の医療に取り込んで行きたいと考えているものの集団である。こうした研修医は東洋医学科のカンファレンスにも参加させ、自分が診た症例などについて報告させるとともに、様々な生薬に直接触れることによって、漢方薬の実際の味や匂いなどを五感を通じて学習させている。今後は、更にスタッフを充実させ研修スペースの拡大をめざし、より多くの研修医に東洋医学の素養を与えて行きたい。こうした、東洋医学科で研修を積んだ者に対しては、研修修了後も声をかけ、出来るだけ毎月1回実施している東洋医学科でのカンファレンスに参加させている。

3) 一般教育（一般大衆や医療者に対し）

平成22年度は、6月4日(金)－6日(日)に名古屋で開催された第61回日本東洋医学会のみならず、様々な学会や講演会で東洋医学に関する学術講演をするとともに、平成22年7月30日(金)には第42回日本医学教育学会において「日本医科大学における東洋医学に関する教育の現状と展望」をテーマに講演した。平成22年10月31日(日)には日本医科大学橋桜会館橋桜ホールにおいて平成22年度日本東洋医学会東京都部会を高橋が会長となり教室員全員の協力の下、200名を超える参加者を得て開催することができた。この大会では、高橋は「自然免疫を介した生体応答と様々な症候：漢方薬の新たな作用点」について講演し、「衛気」と「自然免疫」との関係について概説した。

◇研究活動

本報告書の作成に取り組んでいるなか、国際的医学研究雑誌の頂点に存在する「Nature Medicine 誌 (16 (12): 1407-1414, December 2010)」に術後イレウスを引き起こす原因が免疫現象の一つであり、その改善に冬虫夏草より抽出した成分であるミリオシン (FYT720) が有効に作用するという画期的な論文が発表された。このことは、これまで報告してきたように、我々の体内に内在する生体システム応答の結果が、疼痛・発熱・腫脹などの様々な症候の主たる原因であることを裏付けている。そしてこの生体応答は、ウイルスなどの外来性異物あるいは手術などの医療行為の結果もたらされた内在性異物による刺激に対し、まず体表面に局在する記憶を持たない「自然免疫システム」がその異常に気付き、様々なサイトカ

インを放出し、その結果リンパ球群を主体とした「獲得免疫担当細胞群」を活性化し、この活性化された細胞群そのものあるいはそれらが放出する因子群によって各種の病態が惹起される。従って、ステロイドホルモン、解熱鎮痛剤、免疫抑制剤等、現在使用されている様々な薬剤の多くはこれらの最終的な応答を抑制することによって各種の症状を取り除く物質群である。ところが、こうした生体反応により放出された因子群はあくまでも体内に発生した異物を除去するための因子であるため、その因子自体を除去・不活化した結果、根本的な原因である外来性及び内在性の異物は残存し、結果的に病的な状態は持続することとなる。こうしたことを踏まえ、体内異物を認知し、その制御を担う「自然免疫システム」を活性化し、異物の除去にあたる医学の必要性を研究する過程において、東洋医学で用いる様々な生薬群こそがこうした作用を有するのではないかと考え、現在も研究を展開している。

また、東洋医学の原点である「黄帝内経」に記載されている「体表面に存在し」体内異物である「邪気」の制御を担う「衛気」こそがこの「自然免疫」を指すものと考え、「衛気」の活性化が「自己治療力」あるいは「自然治療力」を高め様々な病態を改善するものであるとの視点から、本報告書に示すように「自然免疫」の中樞を担う「樹状細胞(dendritic cell:DC)」に注目し研究を展開してきた。昨年度は、この樹状細胞がDEC-205分子を有したDC1型と33D1分子を発現したDC2型に大別され、前者DEC-205陽性群を選択的に活性化させることによって体内に発生した癌細胞が制御される可能性を報告した(Cancer Immunol. Immunother, 59:1083-1095, 2010)。この結果は、昨年4月にスイスのダボスで行われた「国際免疫制御学会」において発表の機会を与えられ、世界的な注目を集めた。またこの樹状細胞は体内に侵入・停滞した「脂質・核酸群」によって活性化されることから、我々はこれらの脂質・核酸群を除去する物質群として生薬由来の「サポニン群(シャボン)」に着目し、その代表的な物質として樹皮から抽出したISCOM(immunostimulating complex)の研究を展開し、実際にサポニン群をもとに作成した免疫増強物質が樹状細胞の機能応答性に影響を与える可能性を報告してきた(Nature, 344(6269):873-875, 1990)。また、生薬の主な成分である柴胡や人参などのサポニン群、そして薄荷などの精油(エッセンシャルオイル)群はまさにこうした自然免疫系の刺激剤であり、毎日の継続的な刺激を経口的に与える方策が漢方治療の方策であると考えられる。このことを国際誌の総説として発表し

た(Vaccine, 28S:B3-B7, 2010)。こうした視点から、生薬植物群抽出物質が樹状細胞群や、NKT細胞、 $\gamma\delta$ 型T細胞などの自然免疫担当細胞群に及ぼす影響を検討するため、生薬と同様植物系細菌群に属し強い自然免疫活性化能を有すると推測される結核菌に着目し、BCGによる粘膜自然免疫系活性化能を検討した結果、実際にBCGが自然免疫担当細胞群に影響を及ぼすことを明らかにすることができた(Cancer Immunol. Immunother, 58:1245-1255, 2009)。また、樹状細胞表面上の共刺激分子群(Co-stimulation molecules)の発現状態と抗腫瘍効果とを比較検討したところ、B7-H2分子発現樹状細胞が腫瘍増殖性の鍵を握ることを明らかにするとともに(Clin. Cancer Res, 15:770-777, 2009)、これら共刺激因子が癌細胞が免疫系から逃れるために変化することを報告した(Blood, 116(7):1124-1131, 2010)。更に母乳中に含まれる樹状細胞上のウイルス感染伝播をになうDC-SIGN分子の発現がTLR3を介したシグナルで抑制されることを見いだした(Immunology, 130:597-607, 2010)。

◇著書

- 1) 高橋秀実：細胞性免疫(CTL)の誘導と樹状細胞、臨床粘膜免疫学(清野宏編)、(株式会社シナジー)、p195-223, 2010.12.20

◇総説

- 1) 高橋秀実：免疫力による未病のガンの制御、未病と抗老化, 2010, 9:4-28
- 2) 平馬直樹・秋葉哲生：江戸の医案を読む 第10回 津田玄仙『療治茶談』続編付録よりその2, 漢方と診療, 2010, 1(1):72-79
- 3) 平馬直樹・秋葉哲生：江戸の医案を読む 第11回 津田玄仙『療治茶談』初編より, 漢方と診療, 2010, 1(2):140-147
- 4) 平馬直樹・秋葉哲生：江戸の医案を読む 第12回 原南陽『叢桂亭医事小言』より, 漢方と診療, 2010, 1(3):206-212
- 5) 平馬直樹・秋葉哲生：江戸の医案を読む 第13回 山田業広『井見集附録』より, 漢方と診療, 2010, 1(4):272-279

◇原著

- 1) Takahashi H.:Species-specific CD1-restricted innate immunity for the development of HIV vaccine. Vaccine, 28S:B3-B7, 2010.
- 2) Takeuchi H., Takahashi M., Norose Y., Takeshita T., Fukunaga Y., Takahashi H.: Transformation of breast milk macrophages

by HTLV-I: implications for HTLV-I transmission via breastfeeding. *Biomedical Res.*, 31:53-61, 2010.

- 3) Wakabayashi A., Nakagawa Y., Shimizu M., Takahashi H.: Development of anti-tumor immunity by oral vaccination with tumor antigen and cholera toxin. *J. Nippon Med. Sch.*, 77:50-52, 2010.
- 4) Inaba K., Fukazawa Y., Matsuda K., Himeno A., Matsuyama M., Ibuki K., Miura Y., Koyanagi Y., Nakajima A., Blumberg R. S., Takahashi H., Hayami M., Igarashi T., Miura T.: Small intestine CD4+ cell reduction and enteropathy in SHIV-KS661-infected rhesus macaques in presence of low viral load. *J. Gen. Virol.*, 91:773-781, 2010.
- 5) Miyazaki Y., Kamiya S., Hanawa T., Fukuda M., Kawakami H., Takahashi H., Yokota H.: Effect of probiotic bacterial strains of *Lactobacillus*, *Bifidobacterium* and *Enterococcus* on enteroaggregative *Echerichia coli*. *J. Infect. Chemother.*, 16:10-18, 2010.
- 6) Yagi Y., Watanabe E., Watari E., Shinya E., Satomi M., Takeshita T., Takahashi H.: Inhibition of DC-SIGN-mediated transmission of HIV-1 by TLR3 signaling in breast milk macrophages. *Immunology*, 130:597-607, 2010.
- 7) Moriya K., Wakabayashi A., Shimizu M., Tamura H., Dan K., Takahashi H.: Induction of tumor-specific acquired immunity against already established tumors by selective stimulation of innate DEC-205(+) dendritic cells. *Cancer Immunol. Immunother.*, 59:1083-1095, 2010.
- 8) Moriya K., Wakabayashi A., Shimizu M., Tamura H., Dan K., Takahashi H.: Interferon-gamma and tumor necrosis factor-alpha induce an immunoinhibitory molecule, B7-H1, via nuclear factor-kappaB activation in blasts in myelodysplastic syndromes. *Blood*, 116:1124-1131, 2010.
- 9) Takaku S., Terabe M., Ambrosino E., Peng J., Lonning S., McPherson J.M., Berzofsky J.A.: Blockade of TGF-beta enhances tumor vaccine efficacy mediated by CD8(+) T cells. *Int J Cancer*, 126(7):1666-1674, 2010

◇学会発表

国際学会

- 1) Takahashi H.: Selective activation of species-restricted innate immunity for

the development of individually restricted acquired immunity. World Immune Regulation Meeting-IV. March 29-April 1, 2010 (Davos, Switzerland). (Symposium)

- 2) Negishi Y., Watanabe E., Kumagai Y., Takeshita T., Takahashi H.: Profiling of decidual and splenic dendritic cells in pregnant mice. World Immune Regulation Meeting-IV. March 29-April 1, 2010 (Davos, Switzerland).
- 3) Yagi Y., Watanabe E., Takahashi M., Watari E., Satomi M., Takeshita T., Takahashi H.: Suppression of DC-SIGN-mediated transmission of HIV-1 by TLR3 signaling in breast milk macrophages. World Immune Regulation Meeting-IV. March 29-April 1, 2010 (Davos, Switzerland).
- 4) Mayumi N., Watanabe E., Yagi Y., Watari E., Takahashi H.: Langerin expression on breast milk macrophages under the influence of keratinocytes. World Immune Regulation Meeting-IV. March 29-April 1, 2010 (Davos, Switzerland).
- 5) Omi K., Saito N., Shinya E., Shimizu M., Owaki A., Watanabe E., Takahashi M., Takaku C., Ibuki K., Miura T., Hayami M., Takahashi H.: Invariant T-cell receptor-mediated functional cross-reactivity of natural killer T cells among primates and rodents. World Immune Regulation Meeting-IV. March 29-April 1, 2010 (Davos, Switzerland).
- 6) Matsuhashi T., Higuchi T., Shimizu M., Owaki A., Takahashi M., Shinya E., Nishimura E., Takahashi H.: Possible mechanisms for the inhibition of bladder tumor by intravesical BCG therapy. World Immune Regulation Meeting-IV. March 29-April 1, 2010 (Davos, Switzerland).
- 7) Harimoto H., Shimizu M., Owaki A., Nakatsuka K., Dan K., Takahashi H.: Down-modulation of co-stimulatory molecules on tumor-infiltrating dendritic cells by un-controllable murine hepatoma cells. World Immune Regulation Meeting-IV. March 29-April 1, 2010 (Davos, Switzerland).
- 8) Date T., Moriya K., Wakabayashi A., Takahashi H.: Induction of tumor-specific acquired immunity against already established tumors by selective activation of innate DEC-205+ dendritic cells. World Immune Regulation Meeting-IV. March 29-

- April 1, 2010(Davos, Switzerland).
- 9) Inagaki S., Takeuchi H., Takahashi M., Norose Y., Takahashi H.: Characterization and functional analysis of HTLV-I-transformed breast milk macrophages(HTLV-BrMMφ). World Immune Regulation Meeting-IV. March 29-April 1, 2010(Davos, Switzerland).
 - 10) Takaku S., Nakagawa Y., Takahashi M., Owaki A., Shimizu M, Takaku C., Takahashi H.: Protection of CD8+ CTL apoptosis induced by brief exposure to an antigenic peptide. The 14th International Congress of Immunology. August 22-27, 2010(Kobe, Japan).
 - 11) Negishi Y., Watanabe E., Kumagai Y., Takeshita T., Takahashi H.: Internal balance of two distinct subsets of murine dendritic cells during pregnancy. The 14th International Congress of Immunology. August 22-27, 2010(Kobe, Japan).
 - 12) Harimoto H., Shimizu M., Owaki A., Nakatsuka K., Dan K., Takahashi H.: Down-modulation of co-stimulatory molecules on tumor-infiltrating dendritic cells by uncontrollable murine hepatoma cells. The 14th International Congress of Immunology. August 22-27, 2010 (Kobe, Japan).
 - 13) Yagi Y., Watanabe E., Watari E., Shinya E., Satomi M., Takeshita T., Takahashi H.: Inhibition of DC-SIGN-mediated transmission of HIV-1 via breast milk macrophages by TLR3 signaling. The 14th International Congress of Immunology. August 22-27, 2010 (Kobe, Japan).
 - 14) 平馬直樹：日本漢方のリウマチ性疾患に対する常用方剤紹介，世界中医薬学会連合会風湿病分科会第1回国際会議 特別講演 北京，2010，8，7
- ◇国内学会
- 1) 高橋秀実：*Helicobacter pylori*感染と生体応答，第14回小児*Helicobacter pylori*研究会 特別講演 東京，2010,3,13
 - 2) 高橋秀実：成人型STILL病の再燃を起こした授乳婦に対し温病方剤が奏功した1例，第61回日本東洋医学会学術総会 特別シンポジウム1 名古屋，2010，6,4-6
 - 3) 菅沼 栄：「六経弁証と臟腑弁証、傷寒と温病」，第61回日本東洋医学会学術総会 教育講演 名古屋，2010，6,4-6
 - 4) 菅沼 栄：中医学から見た厥陰病・温病から厥陰病の治療を補足，第61回日本東洋医学会学術総会 シンポジウム 名古屋，2010，6,4-6
 - 5) 廣田 薫、近江恭子、小野顕人、吉永恵実、福山耕治、高久千鶴乃、高久 俊、平馬直樹、高橋秀実：反復性腹痛発作ならびに冷え・浮腫を伴う月経困難症に対し漢方薬が奏功した一例，第61回日本東洋医学会学術総会 一般講演 名古屋，2010，6,4-6
 - 6) 高久 俊、大藪英一、栗林秀樹、高久千鶴乃、廣田 薫、近江恭子、吉永恵実、平馬直樹、高橋秀実：透析患者における上部消化器症状に対して平胃散が著効した4例，第61回日本東洋医学会学術総会 一般講演 名古屋，2010，6,4-6
 - 7) 小野顕人、福山耕治、近江恭子、廣田 薫、高久 千鶴乃、高久 俊、平馬直樹、高橋秀実：リウマチ性多発筋痛症の既往がある患者の腰背部痛に漢方薬が有効であった一例，第61回日本東洋医学会学術総会 一般講演 名古屋，2010，6,4-6
 - 8) 福山耕治、小野顕人、近江恭子、吉永恵実、高久 俊、廣田 薫、高久 千鶴乃、平馬直樹、高橋秀実：十全大補湯が奏功した気血両虚による過活動性膀胱の一例，第61回日本東洋医学会学術総会 一般講演 名古屋，2010，6,4-6
 - 9) 福岡豊永 藤田 勇、高久 俊、平馬直樹、高橋秀実：医師と鍼灸師の連携 ～小児円形脱毛症の一例を通して～，第61回日本東洋医学会学術総会 一般講演 名古屋，2010，6,4-6
 - 10) 高橋秀実：エイズの現況と対策，第20回日本医科大学医学会公開シンポジウム シンポジウム 東京，2010，6,12
 - 11) 高橋秀実：日本医科大学における東洋医学に関する教育の現状と展望，第42回日本医学教育学会大会 特別講演 東京，2010,7,29
 - 12) 高橋秀実：自然免疫を介した生体応答と様々な症候：漢方薬の新たな作用点，日本東洋医学会東京都部会 特別講演 東京，2010，10,31
 - 13) 平馬直樹：難治性皮膚疾患に対する漢方治療の試み，日本東洋医学会東京都部会 特別講演 東京，2010，10,31
 - 14) 高橋めぐみ、稲垣真一郎、渡理英二、高橋秀実：HIV-1感染細胞を傷害するNKレセプター陽性T細胞，第58回日本ウイルス学会学術集会 一般講演 徳島，2010,11,7-9
 - 15) 中川洋子、渡理英二、高橋秀実：Single-color flow cytometryを用いたHIV外被糖蛋白gp160特異的細胞傷害性T細胞活性測定法の検討，第58回日本ウイルス学会学術集会 一般講演 徳島，2010,11,7-9
 - 16) 平馬直樹：江戸の医家津田玄仙の臨床に学ぶ，

- 日本東洋医学会山形県部会 特別講演 山形, 2010, 11.14
- 17) 高橋秀実: 感染症に対する生体応答と各種の症候, 第23回日本外科感染症学会総会学術集会 特別講演 東京, 2010,11.18-19
 - 18) 新谷英滋、清水真澄、大脇敦子、渡邊恵理、高久千鶴乃、松村次郎、DeLibero Gennaro、高橋秀実: Interaction between HIV-1 Nef and the lipid antigen presentation molecules, CD1a and CD1d, in dendritic cells, 第24回日本エイズ学会学術集会 一般講演 東京2010, 11.24-26
 - 19) 高久千鶴乃、渡邊恵理、大脇敦子、清水真澄、松村次郎、近江恭子、渡理英二、新谷英滋: Th2型環境におけるCD4陽性NKT細胞のX4 type HIV-1に対する感受性ならびに感染伝播性の増強, 第24回日本エイズ学会学術集会 一般講演 東京, 2010,11.24-26
 - 20) 松村次郎、大脇敦子、清水真澄、秋山純一、新谷英滋、岡 慎一、高橋秀実: HIV患者の腸管粘膜感染細胞内に存在するウイルス核酸の実態, 第24回日本エイズ学会学術集会 一般講演 東京, 2010,11.24-26
 - 21) 高橋秀実、八木幸恵、渡邊恵理、渡理英二、新谷英滋、里見操緒、竹下俊行: TLR3シグナルによる母乳中マクロファージのDC-SIGN分子を介したエイズウイルス感染伝播抑制, 第24回日本エイズ学会学術集会 一般講演 東京, 2010,11.24-26

◇講演

- 1) 平馬直樹: 中医基本処方解説その1 仙台中医学研究会 教育講演 宮城, 2010, 1.16
- 2) 菅沼 栄: 五臓の風・寒・積・聚病の脈・証・治, 東京中医学研究会 教育講演 東京, 2010, 1.28
- 3) 平馬直樹: 中医基本処方解説その8, 神奈川実践漢方勉強会 教育講演 横浜, 2010, 2.20
- 4) 菅沼 栄: 痰飲、咳嗽病の脈・証・治, 東京中医学研究会 教育講演 東京, 2010, 2.25
- 5) 平馬直樹: 津田玄仙から学ぶ弁証論治, 熊本漢方談話会 一般講演 熊本, 2010, 3.6
- 6) 菅沼 栄: 痰飲、咳嗽病の脈・証・治, 東京中医学研究会 教育講演 東京, 2010, 3.25
- 7) 菅沼 栄: 痰飲、咳嗽病の脈・証・治, 東京中医学研究会 教育講演 東京, 2010, 4.22
- 8) 平馬直樹: 中医基本処方解説その2 仙台中医学研究会 教育講演 宮城, 2010, 4.24
- 9) 菅沼 栄: 消渴・小便不利・淋病の脈・証・治, 東京中医学研究会 教育講演 東京, 2010, 5.27
- 10) 平馬直樹: 中医基本処方解説その9 神奈川実

- 践漢方勉強会 教育講演 横浜, 2010, 5.29
- 11) 菅沼 栄: 消渴・小便不利・淋病の脈・証・治, 東京中医学研究会 教育講演 東京, 2010, 6.24
 - 12) 平馬直樹: 中医基本処方解説その3 仙台中医学研究会 教育講演 宮城, 2010, 7.17
 - 13) 菅沼 栄: 消渴・小便不利・淋病の脈・証・治, 東京中医学研究会 教育講演 東京, 2010, 7.22
 - 14) 菅沼 栄: 中医学・医学史、陰陽五行学説, 新東京中医学入門講座 教育講演 東京, 2010, 7.24
 - 15) 高橋秀実: 樹状細胞に関する新たな知見: 生体応答と各種の症候、新たな腫瘍制御へのアプローチ, 平成22年度北区医師会夏の免疫・アレルギーセミナー 特別講演 東京, 2010, 8.4
 - 16) 高橋秀実: HIVの現状と対応, 平成22年度第一回院内感染対策講演会 特別講演 東京, 2010, 9.13
 - 17) 菅沼 栄: 気血津液, 新東京中医学入門講座 教育講演 東京, 2010, 9.25
 - 18) 菅沼 栄: 消渴・小便不利・淋病の脈・証・治, 東京中医学研究会 教育講演 東京, 2010, 9.30
 - 19) 平馬直樹: 中医基本処方解説その10 神奈川実践漢方勉強会 教育講演 横浜, 2010, 10.9
 - 20) 平馬直樹: 中医基本処方解説その4 仙台中医学研究会 教育講演 宮城, 2010, 10.16
 - 21) 菅沼 栄: 水気病の脈・証・治, 東京中医学研究会 教育講演 東京, 2010, 10.28
 - 22) 高橋秀実: 日常診療に役立つ漢方医療, 東京医科歯科大学イブニングセミナー 特別講演 東京, 2010, 10.29
 - 23) 高橋秀実: 東洋医学と西洋医学, 第13回日本医科大学父母会総会 特別講演 東京, 2010, 11.23
 - 24) 菅沼 栄: 水気病の脈・証・治, 東京中医学研究会 教育講演 東京, 2010, 11.25
 - 25) 菅沼 栄: 八綱弁証, 新東京中医学入門講座 教育講演 東京, 2010, 11.27